

第13回 KITライフサイエンスセミナー

精子の品質管理を行う雌の器官形成について



演者 **加藤 容子**

京都工芸繊維大学大学院・工芸科学研究科
応用生物学系・応用ゲノミクス研究分野
大学戦略推進機構系・グローバルエクセレンス助教

日時 11月 21日 (火) 17:00 - 18:00

会場 京都工芸繊維大学 2号館 4階 441セミナー室

対象 教員, 学生, 一般の方

生物の多くは貯精器官を有する。貯精器官は、雄から受け取った精子を雌の体内に蓄え、受精まで品質を保つ役割を担っている。貯精器官を有する昆虫においては、受精嚢は1つから3つまで種によって数は異なる。どのように受精嚢数が決定されているのか、また受精嚢数と生殖能力の関連は不明である。そこで、キイロショウジョウバエを用いて、受精嚢数の決定機構を明らかにすることにした。遺伝学的探索の結果、平面内細胞極性に関わる遺伝子、Wntシグナルに関わる遺伝子では受精嚢数に異常が現れた。現在までの実験結果とこれまでの研究についても合わせて報告したい。